

© International Baccalaureate Organization 2022

All rights reserved. No part of this product may be reproduced in any form or by any electronic or mechanical means, including information storage and retrieval systems, without the prior written permission from the IB. Additionally, the license tied with this product prohibits use of any selected files or extracts from this product. Use by third parties, including but not limited to publishers, private teachers, tutoring or study services, preparatory schools, vendors operating curriculum mapping services or teacher resource digital platforms and app developers, whether fee-covered or not, is prohibited and is a criminal offense.

More information on how to request written permission in the form of a license can be obtained from <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

© Organisation du Baccalauréat International 2022

Tous droits réservés. Aucune partie de ce produit ne peut être reproduite sous quelque forme ni par quelque moyen que ce soit, électronique ou mécanique, y compris des systèmes de stockage et de récupération d'informations, sans l'autorisation écrite préalable de l'IB. De plus, la licence associée à ce produit interdit toute utilisation de tout fichier ou extrait sélectionné dans ce produit. L'utilisation par des tiers, y compris, sans toutefois s'y limiter, des éditeurs, des professeurs particuliers, des services de tutorat ou d'aide aux études, des établissements de préparation à l'enseignement supérieur, des fournisseurs de services de planification des programmes d'études, des gestionnaires de plateformes pédagogiques en ligne, et des développeurs d'applications, moyennant paiement ou non, est interdite et constitue une infraction pénale.

Pour plus d'informations sur la procédure à suivre pour obtenir une autorisation écrite sous la forme d'une licence, rendez-vous à l'adresse <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

© Organización del Bachillerato Internacional, 2022

Todos los derechos reservados. No se podrá reproducir ninguna parte de este producto de ninguna forma ni por ningún medio electrónico o mecánico, incluidos los sistemas de almacenamiento y recuperación de información, sin la previa autorización por escrito del IB. Además, la licencia vinculada a este producto prohíbe el uso de todo archivo o fragmento seleccionado de este producto. El uso por parte de terceros —lo que incluye, a título enunciativo, editoriales, profesores particulares, servicios de apoyo académico o ayuda para el estudio, colegios preparatorios, desarrolladores de aplicaciones y entidades que presten servicios de planificación curricular u ofrezcan recursos para docentes mediante plataformas digitales—, ya sea incluido en tasas o no, está prohibido y constituye un delito.

En este enlace encontrará más información sobre cómo solicitar una autorización por escrito en forma de licencia: <https://ibo.org/become-an-ib-school/ib-publishing/licensing/applying-for-a-license/>.

**Japanese B – Higher level – Paper 2 – Reading comprehension**  
**Japonais B – Niveau supérieur – Épreuve 2 – Compréhension écrite**  
**Japonés B – Nivel Superior – Prueba 2 – Comprensión de lectura**

Tuesday 10 May 2022 (afternoon)  
Mardi 10 mai 2022 (après-midi)  
Martes 10 de mayo de 2022 (tarde)

1 h

---

**Text booklet – Instructions to candidates**

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet accompanies paper 2 reading comprehension.

**Livret de textes – Instructions destinées aux candidats**

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret accompagne la partie de l'épreuve 2 portant sur la compréhension écrite.

**Cuadernillo de textos – Instrucciones para los alumnos**

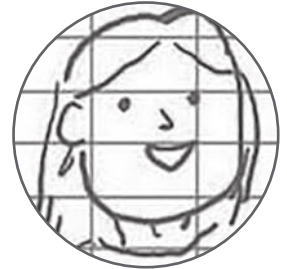
- No abra este cuadernillo hasta que se lo autoricen.
- Este cuadernillo acompaña a la parte de comprensión de lectura de la prueba 2.

問題 A

## アメリカに来てから変わったライフスタイル

① アメリカに来てから、私のライフスタイルは がらっと変わった。

② まず、起きる時間が 8 時ごろから 6 時半に変わった。そして、日本では一番遅いときは終電で帰っていたが、アメリカでは帰る時間も 16 時半から 17 時半に変わった。私は車を持っていないので、オフィスに行くにも帰るにも会社のバスしかない。だから今は会社のバスに合わせた生活をしている。



山田和美

③ 一か月前、日本に一時帰国して思ったのだが、日本は とにかく住みやすい。電車が 5 分おきぐらいに来るので、車がなくても どこにでも行けるし、コンビニなどで何でもすぐ手に入る。また、安全なので、夜暗くなっても平気で歩ける。でも、実はこの日本の便利さが、オフィスに長くいる一つの原因ではないかと思う。アメリカに来て、「強制的」に早くオフィスへ行き、早く帰るので、オフィスにいる時間は短くなった。そのせいか、オフィスにいるときは もっと集中して仕事をする。

④ アメリカでは、仕事のあとの時間の過ごし方も大きく変わって、自分の興味あることを追求する時間が増えた。日本では平日でもオフィスの近くで食事に行っていた。でも、アメリカでは平日は家に帰ってゆっくりして、週末に遊びに行く。日本にいたらなかなか見られないようなコンサートやミュージカルなどを多く楽しむことができる。

⑤ アメリカの仕事では、よくイベントの手伝いをする。私は昔からイベントが大好きで、日本でもこの仕事の経験はあった。でも、アメリカのイベントで受付を担当すると、なかなか大変だ。まず、参加者の名札をアルファベット順に並べるのだが、これが意外に難しい。例えば、R と U が出てきて、「これ、どちらが先？」と とまどう。落ち着いて考えると難しくないのだが、急いで仕事をしていると、アルファベットの順番を考えるのが難しい。それで、頭の中で ABC の歌を歌って考える。このように、イベントは本当に疲れるが、終わったあと、参加者がどれだけイベントを楽しんだか聞くと、とてもうれしくなる。

⑥ このようにアメリカでは仕事や日常生活から多くの事を学んでいる。仕事の面では、アメリカ本社のほうが、仕事の種類や数がずっと多い。また、人とのネットワークもどんどん広がる。だから、もうしばらくはアメリカで仕事を続けて、自分の力をのばしてみたいと思っている。

問題 B

# 8年後、65才以上は5人に1人



Q. 最近、よくニュースを見ていますか。

A. ええ、「<sup>にんちしょう</sup>認知症」という言葉をよく聞きますね。

Q. [- 21 -]

A. のうの <sup>さいぼう</sup>さいぼうが こわれて、物忘れが ひどくなったり、理解力や判断力が低くなる病気です。65才以上の<sup>にんちしょう</sup>認知症の人は2025年までには700万人にまで増えると予想されています。これは<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者の5人に1人で、みんなに無関係とはいえない問題です。

Q. [- 22 -]

A. 2014年、京都で<sup>かいぎ</sup>国際会議が開かれ、多くの<sup>にんちしょう</sup>認知症の人が参加して、経験や思いを語りました。その<sup>かいぎ</sup>会議に参加した<sup>にんちしょう</sup>認知症の人たちが交流を広げ、自分の生きかたは自分で決めたいという願いをうったえました。本人たちの活動を受け、社会の見かたも変わってきています。

Q. [- 23 -]

A. 2004年に同じ<sup>かいぎ</sup>国際会議があつて、<sup>にんちしょう</sup>認知症の人たちが「私たちの能力を信じてほしい」と語りました。それに<sup>こうせい</sup>応じて、厚生労働省は今までの <sup>よびかた</sup>よびかたは良くないとして、「<sup>にんちしょう</sup>認知症」という名前に変えました。それ以来、<sup>にんちしょう</sup>認知症の人が顔や名前をかくさないで<sup>おおぜい</sup>大勢の人の前で話をするという動きが始まりました。

Q. [- 24 -]

A. 2015年に政府が「新オレンジプラン」という<sup>にんちしょう</sup>計画を立てました。<sup>にんちしょう</sup>認知症の人や家族を<sup>おうえん</sup>応援する<sup>にんちしょう</sup>認知症サポートを増やすプランです。<sup>にんちしょう</sup>認知症になっても買い物や外出ができるように、安心して利用できる<sup>きぎょう</sup>交通機関やお店を作る<sup>にんちしょう</sup>企業も増えています。今は<sup>にんちしょう</sup>認知症とともに生きる新しい時代になりました。それで、国を挙げて<sup>にんちしょう</sup>認知症の人への <sup>しえん</sup>しえんに取り組んでいます。

Q. 本当に<sup>にんちしょう</sup>認知症の人のための新しい時代ですか。

A. そうですね。<sup>にんちしょう</sup>認知症の人が1人で外出して行方不明になったり、だまされて要らない商品<sup>にんちしょう</sup>を売りつけられたりする問題は後を絶ちません。それに、今年の3月からは<sup>にんちしょう</sup>認知症の心配がある<sup>こうれい</sup>高齢ドライバーへの<sup>にんちしょう</sup>チェックが <sup>めんきよ</sup>きびしくなりました。<sup>にんちしょう</sup>認知症で<sup>めんきよ</sup>免許を取り消される人が増えると、くらしに必要な<sup>かいぎ</sup>移動手段はどうするのでしょうか。解決すべき問題はまだまだ残っていますが、<sup>かいぎ</sup>国際会議で話し合ったことは大切な一歩です。

## 問題 C

私たちには、現実の上でも抽象的な意味でも、急いで行くべき所はなかった。これまで人の手伝いをしないで、自分だけのためのくらしをくらししたこともほとんどなかった。〈中略〉

20 　そして姉はどんぐり姉妹の構想を話しはじめた。

大変そうだけれど、お金を取らないかぎりには本当にいいなと思った。

お金を取らなければ、お返事が意にそうものでなくても責任が生じない。ただの文通になる。お金目当てでなければ、宣伝しなくてもいいから、たくさんすぎるメールに苦しむこともない。「でも、一生収入がないっていうのはちよつと心配なだけだけれど。」

25 　私は言った。

「私はライターの仕事をちゃんと続けていくし、その合間にそのメールボランティアの仕事をすればいいと思う。心の中の本業がそれであるかぎり、私はライターの仕事が見ついたときがあつても、収入が減つてきても、人として生きていけると思う。」

姉は言った。

30 　「ただ、私にはめんみつなところがないから、メールを管理するのを、ぐりちゃんがしてほしい。」

「それならできる。」

私は言った。

35 　「家事もやる。ご飯はいつでも作れるし、そうじはたまに手伝ってくれればいい。」

「やってみようよ。」

姉は言った。

## どんぐり姉妹

「私たちはどんぐり姉妹です。」

このサイトの中にしか存在しない姉妹です。

何ていうことのない やりとりをして、気持ちが落ち着くことってありませんか？

私たちにいつでもメールをください。

おたがいにフォームの枠内わくないの字数までというルールの中ですが、何でも書いてください。

時間はかかっても、お返事をします。

どんぐり姉妹

これがどんぐり姉妹のサイトのトップに書いてある言葉だ。

10 サイトの壁紙かべがみは姉がデザイナーの友人にたのんで、かわいい どんぐりの小さなイラストをそえセンスよく作ってもらった。

「だれかにメールしたいけれど、知っている人にはしたくないというときに ちょうどいい存在」という ゆるい理念をかかげて、一人きりで始めた仕事だった。

三十代向けの女性誌でライターの仕事をしている文才のある姉がメールを書く。

私は直感を使ってメールにアイデアを出すことと、事務作業じむを担当たんとうしている。

15 めげなくお返事したかどうかをチェックしたり、姉の返事に目を通し保存、何か引つかかるものがあれば姉と話し合い、なければ私が送信する。(中略)

**Disclaimer:**

Texts used in IB language assessments are taken from authentic, third-party sources. The views expressed within them belong to their individual authors and do not necessarily reflect the views of the IB.

**References:**

- 問題 A** のだみき, 2017. 渡米後、がらっと変わったライフスタイル『アラサー女子のシリコンバレー奮闘記』[blog] 9 February. Available at: <https://ameblo.jp/3kkibayarea/entry-12246163663.html> [Accessed May 2019]. Source adapted.
- 問題 B** 朝日新聞社, 2017. 「認知症」とともに生きる時代『朝日小学生新聞』 20 May. P. 1. Source adapted.
- 問題 C** よしもとばなな著, 2010. 『どんぐり姉妹』(新潮社刊) Pp. 5–6, 43, 49–50.